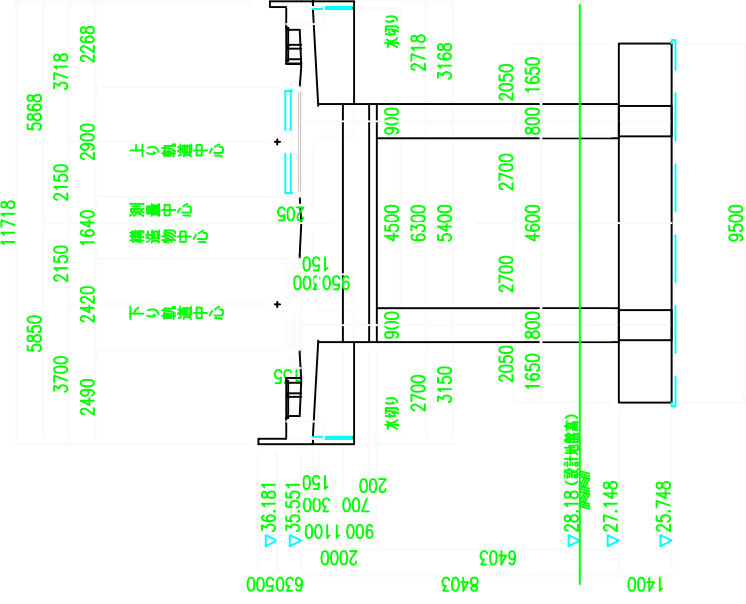
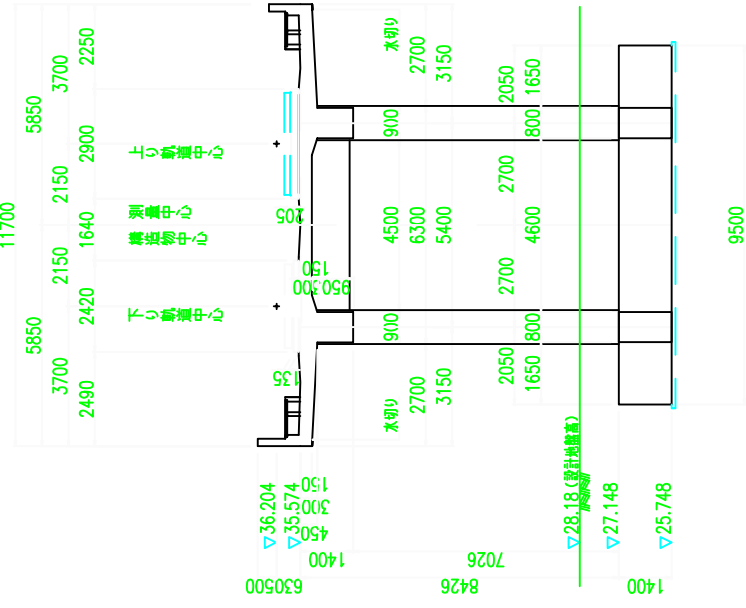


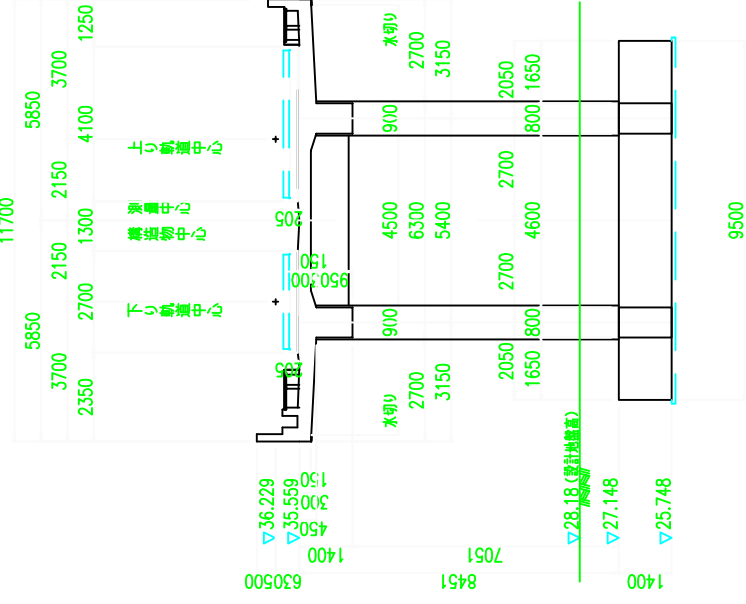
断面A-A



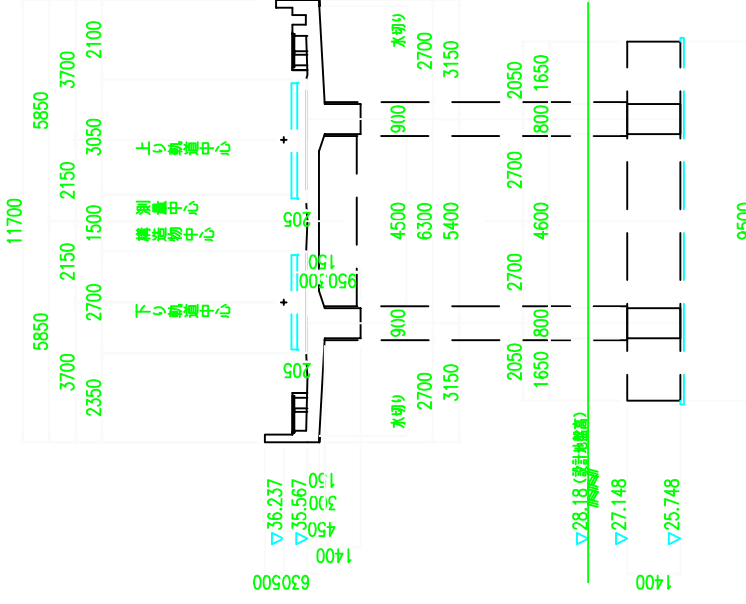
断面B-B



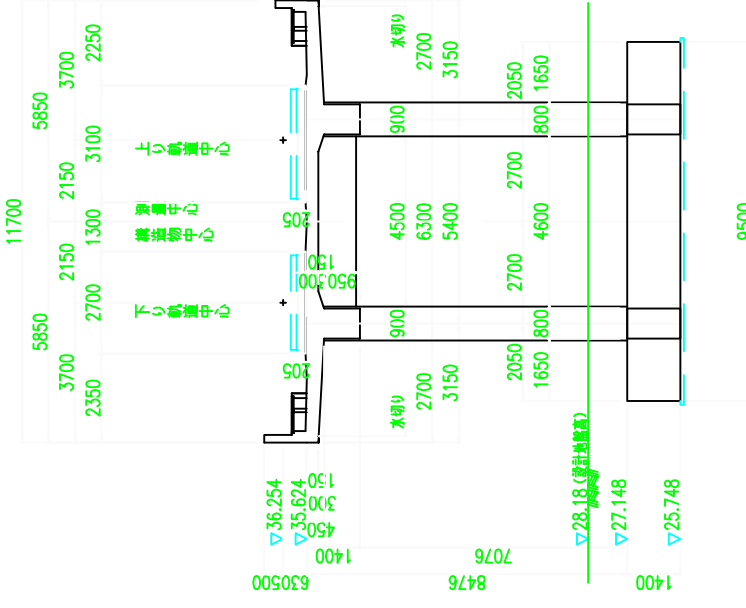
断面C-C



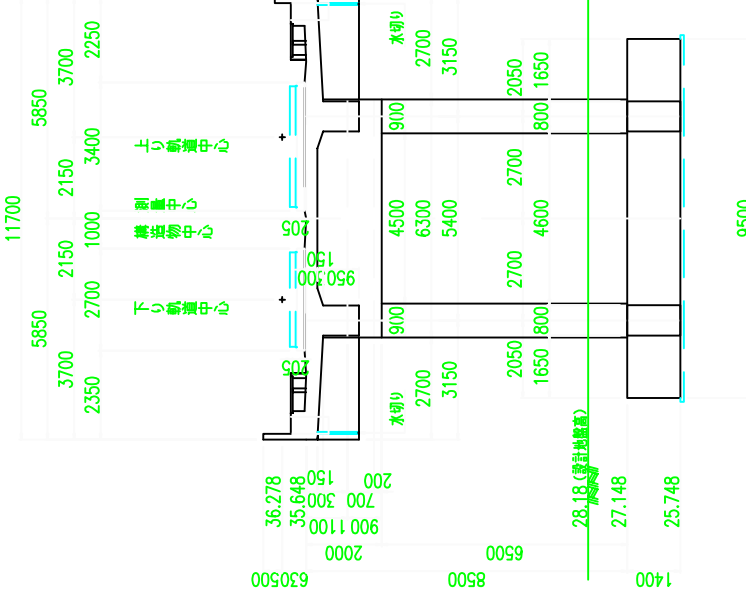
断面D-D



断面E-E



断面F-F



線名	九州新幹線西九州ルート
構造形式	複線用ゲルバー式ラーメン高架橋
橋長	40m (4径間)
高架橋の高さ	地中梁天端～スラブ上面 8.403m～8.500m
設計列車荷重	標準列車荷重 P-16, V=260km/h
設計列車荷重	M-18, V=200km/h
設計耐用期間	100年
設計耐震性能	耐震性能 I 耐震性能 II 耐震性能 III 耐震性能 IV 耐震性能 V 耐震性能 VI 耐震性能 VII 耐震性能 VIII 耐震性能 IX 耐震性能 X 耐震性能 XI 耐震性能 XII 耐震性能 XIII 耐震性能 XIV 耐震性能 XV 耐震性能 XVI 耐震性能 XVII 耐震性能 XVIII 耐震性能 XIX 耐震性能 XX 耐震性能 XXI 耐震性能 XXII 耐震性能 XXIII 耐震性能 XXIV 耐震性能 XXV 耐震性能 XXVI 耐震性能 XXVII 耐震性能 XXVIII 耐震性能 XXIX 耐震性能 XXX
構造物の環境条件	一般の環境
温度変化	ラーメン本体: ±10℃ 上層梁: 150×10 ⁻⁶ 地中梁: 75×10 ⁻⁶
乾燥収縮係数	スラブ・梁 柱
鉄筋のかぶり (保護厚)	50mm以上 60mm以上 50mm以上
部材	スラブ・梁・柱 地中梁 フーチング
設計基準強度	24 N/mm ² 24 N/mm ² 24 N/mm ²
セメントの種類	普通 / 高炉 (B) 普通 / 高炉 (B) 普通 / 高炉 (B)
骨材の種類	普通 普通 普通
骨材の最大寸法	25 mm 25 mm 40 mm
スラブの範囲	12±2.5cm 12±2.5cm 8±2.5cm
空気量の範囲	4.5±1.5% 4.5±1.5% 4.5±1.5%
最大セメント比	55% / 47% 55% / 55% 55%
単位水量の上限値	175 kg/m ³ 175 kg/m ³ 165 kg/m ³
部材	スラブ・梁 柱・地中梁・フーチング
鉄筋の種類	SD345 SD390
設計引張強度	490 N/mm ² 560 N/mm ²
設計引張伏強度	345 N/mm ² 390 N/mm ²
適用設計標準	J2991-1(H16.4) 建築 (H12.6) 耐震 (H11.10) 実規 (H18.2)

加工の注意事項

1. バイブレーターは主筋筋のかぶりの部分に密着に振打ること。
2. 養生は型枠をはずした後も継続し、所定の期間の湿潤養生を行い、ひび割れ防止に努めること。
3. ストッパー用の養生を撤去する際は、雨水が溜まらないように養生を撤去すること。
4. 水切は、引出部下面、帯状養生の下面に設けること。
5. 帯状養生部に水抜きを設けること。
6. 前養生用のアンカー筋は、引出スラブに埋め込みしておくこと。
7. 附設コンクリート用のアンカー筋は、スラブに埋め込みしておくこと。
8. 建設用のアンカーボルト、インサート金具および埋込管等は、監督員と打合せの上でできるだけ後加工とならないよう設けること。
9. 桁底には1/40以上の排水勾配を設けること。
10. ショーラン玉砕ケル、ゴムシューは上部工事とする。
11. 高さ表示は、すべてP表示である。
12. 支持地盤の設計用土質定数は既述セメント試験 (SBIFD) の結果を用いている。
13. 地中梁およびフーチングのセメント量は、高炉 (B) を優先すること。
14. 既述の試験結果は土質定数を参照すること。

設計番号	ERB*352-11032の修正
契約番号	加配(海防)加配(西)加配(新)加配(新)加配(新)
主任	監査
技術者	製図
主査	製図
設計会社	株式会社 復建エンジニアリング
平成 26 年 12 月	

工事件名	小路口本町BL R4ラーメン高架橋
図面名称	構造一般図 (その3)
縮尺	1/200
図面番号	案の内
課長	補遺
佐長	係長
担当	担当
設計	設計
平成 年 月	